2027年3月期 第2四半期 決算説明会 質疑応答概要
（2026年11月5日開催）

**Q1. 上期利益の好結果に対して通期予想を据え置いていますが、下期の投資拡大あるいは安定事業の縮小リスク等、懸念点がありましたら教えてください。**

A.（回答者：鳥屋）

上期の業績につきましては、売上高が計画比で約2%下回ったものの、営業利益は計画比12%増、金額にして5,800万円の増益となりました。主な要因は、システム運用・サービス事業が計画を下回った一方で、利益率の高いソリューションサービス事業が計画を上回り、事業構成の変化によって収益性が改善したことによるものです。

一方、通期業績予想を据え置いている理由につきましては、当グループの業績が下期偏重の傾向にあり、通期業績を見通すうえでは、下期の業績進捗を慎重に見極める必要があると判断しているためです。

また、事業環境につきましては、AIの進展に伴う顧客の内製化や案件構成の変化など、中長期的な市場環境の変化を注視しております。

こうした環境変化への対応として、AIをはじめとする先端技術への投資や研究開発に加え、成長事業である「ZeeM」のUI/UX刷新、「SmartStage」のフロントシリーズ拡充に向けたソフトウェア開発投資を積極的に進めてまいります。これらの成長投資と収益性の確保を両立させながら、通期業績予想の達成、そして過去最高益の更新に向けて、着実に取り組んでまいります。

**Q2. 不正アクセス被害など、サイバーセキュリティインシデントへの注目が集まっていますが、PHPなどの脆弱性に対する攻撃など、当社におけるセキュリティ管理や対策状況について教えてください。**

A.（回答者：二宮）

PHPに関しては10月21日（水）の夜に報道があり、当社でもその日のうちに対策や情報の確認を行いました。結論から申し上げますと、不正アクセスやサイバー攻撃に関して、当社グループ内の業務システム・社内基盤、およびお客様に提供しているシステム全般において、実被害は一切確認されておりません。問題なく対応しております。

速やかに確認を進め、翌朝までに対処を行いました。PHP製品につきましては、当社の製品本体には使用しておりませんので直接的な影響はございません。パッチ適用を行ったお客様環境もございましたが、それ以外も含め、お客様業務に影響を与えることなく現在も正常に稼働を続けております。

今後におきましても、不正アクセスやサイバー攻撃の事案が日々報じられている状況を鑑み、社内におけるインシデント発生時の体制強化を現在進めております。万一の際にも迅速にお客様システムへの影響有無を確認し、適切な対応が図れる体制を継続してまいります。

**Q3. 生成AIの急速な進化・普及は、御社にとってビジネス上の脅威と成長機会のどちらが大きいと捉えていますか？**

A.（回答者：二宮）

生成AIの急速な進化・普及は周知の通りですが、短期的には一部業務の効率化や工数圧縮というリスク・脅威はあると感じております。しかしながら、中長期的には事業構造を高収益化させる非常に大きな成長機会であると捉えております。

先ほどもご説明しました通り、当社の既存のお客様に対してERP系の個別カスタマイズ等を受注するケースが多いなかで、現在特に増えているのがAI機能の組み込み開発です。

当社、あるいはアマノ社を含めた強固な顧客基盤においてそうしたニーズが拡大しており、一部の脅威を上回るペースで商談機会が増加しているため、大きな好機であると考えております。

今後はAIがどのように展開していくか予測しづらい側面もございますが、まずは直近の需要・事象をしっかりと見据え、対応できる取り組みを迅速に進めてまいります。

以上